



# 東京都立 立川高等学校

- 学校長／吉田 順一
- 創 立／明治34年
- 生徒数／955名(男500名、女455名)

## 沿革

明治34(1901)年5月に東京府立第二中学校として開校。  
昭和25(1950)年1月に東京都立立川高等学校となる。  
多摩地区の方々から期待と支援を受けてきた、創立119年の伝統校。

## 特色ある教育

### 1 進学指導重点校

東京都教育委員会より平成15年から平成34年(令和4年)度まで進学指導重点校として指定。難関国立大学(東京大学、京都大学、一橋大学、東京工業大学及び国公立大学医学部)へ合格できる学力を身につける学習指導と進路指導に取り組んでいる。平成30年3月、文部科学省スーパーサイエンスハイスクール(SSH)指定校となる。

### 2 高い志の進学指導

高い志を持たせるキャリア教育に重点を置き、将来を見通した大学進学を目指す教育を行う。東京大学、京都大学、一橋大学、東京工業大学などの大学研究室訪問、学習オリエンテーションや各界で活躍している方の講演会など、将来への志を高く持つ教育に取り組んでいる。

### 3 自主自律の精神

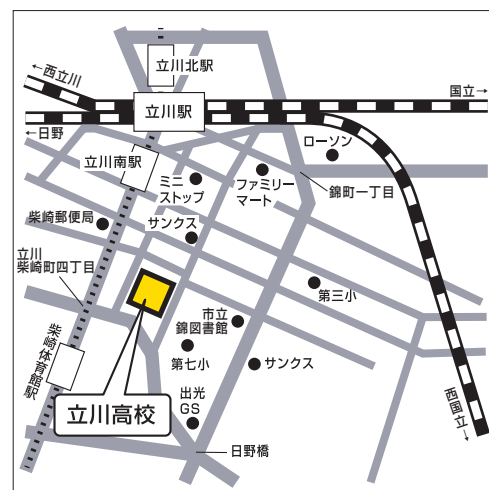
エリート教育とリーダーシップ教育に積極的に取り組んでいる。行事の主体は生徒にあり、各行事では生徒の有志による実行委員会が組織される。これが立高の脈々と受け継がれた精神である。

## 学校行事

- 【5月】 体育祭
- 【6月】 合唱祭
- 【7月】 臨海教室(1年)
- 【8月】 演劇コンクール
- 【9月】 文化祭
- 【3月】 クラスマッチ



校舎写真▲



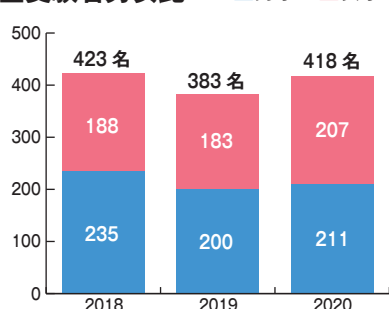
MAP▲

## 交通

JR中央線・南武線・青梅線立川駅より徒歩8分。多摩モノレール立川南駅より徒歩6分。柴崎体育館駅より徒歩5分。

## 過去入試データ

### ■受験者男女比



### 入試結果のデータ一覧(応募・受験・合格)

年度	募集者数			応募者数			受験者数			合格者数			実質倍率		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
2018	132	122	254	264	197	461	235	188	423	136	124	260	1.73	1.52	1.63
2019	132	121	253	218	188	406	200	183	383	136	123	259	1.47	1.49	1.48
2020	132	122	254	231	219	450	211	207	418	136	124	260	1.55	1.67	1.61

※上記は一般入試の数値です。

## ▶ 入学者決定方法（2020年度）

### 推薦入試（定員の20%）

募集定員	配点	
男子32名	調査書点 5段階×9教科× $\frac{500}{45}$	500点
女子30名	集団討論・個人面接点	200点
合計62名	小論文点	300点
合計		1000点

### 一般入試（定員の80%）

募集定員	配点	
男子132名	学力検査100点×5教科× $\frac{700}{500}$	700点
女子122名	調査書点（主要5教科+技能4教科×2）× $\frac{300}{65}$	300点
合計254名	合計	1000点

## ▶ 2020年度 入試問題分析

**英語** 大問数は3題で、小問数がリスニング5問を除くと昨年度と同様に22問である。これはここ数年変わらず。昨年度と比べると、[2]は、表が示され、単語数もやや増加した（合計で約70語）。最近の傾向である速読を要求する姿勢が、昨年度と同様に鮮明になっている。文章内容は、[2]はプラネタリウムに関して太陽系(solar system)の文章で、こうした理系に興味を持つ生徒を求めている姿勢がうかがえる。[3]は物語で、昨年度と同様に日本の話になっていたのも、ややイメージしやすかったのではないだろうか。次に出題の内容だが、会話文の補充問題・並べ替え英文文・リード問題・内容把握・適語要約と多岐にわたっており、これはほぼ例年通りである。また、40～50語の英作文の文章が最後に出されており、英作文へのアプローチは必須である。ここでの注意点は、自分では自分のミスに気が付かないことである。また、注釈のある単語であっても、半分以上を知っている程度の単語量は必要である。長文読解力のアップのために、指示語・接続語のチェックと同時に、音読することで英語の表現に慣れる必要がある。

**数学** 大問4題、小問15問で小問が1問増えたもののほぼ例年通りの出題。全体としては昨年度より易化している。[1]は、基本計算問題2問、整数問題、確率、作図が出題された。どれも標準的なレベルの問題である。[2]は、二次関数の問題で、直線の式、台形の面積、座標を求める問題であった。[3]は、平面図形の問題で正方形と直角二等辺三角形を題材にした問題。〔問2〕の相似の証明は、具体的な角度を求めて証明を進めていくことに気付けるかがポイントであった。〔問3〕は、半円から四角形AGHEを引くことが分かれば容易に解けた。[4]は、直方体を題材にした空間図形の問題で、難度が低かった。〔問2〕は最短距離の問題で、正解した受験生が多かったと思われる。〔問3〕は、立体の体積を求める問題であったが、三角形NMRの面積が求められれば、容易に解ける。昨年度よりは易化したのが、計算・小問分野・関数・平面図形・空間図形・確率の全分野の典型的な問題を確実に解けるようにすることが必要となる。

**国語** 今年度はこれまで同様大問5題の構成だったが、[4]から200字作文がなくなり、長めの記述2問へと出題が変化した。それ以外には[5]で抜き出し問題が1問と昨年度と変化がなかったため、実質記述文字数は増加していないが、それでも時間配分に苦労した受験生も多かったのでは。国語は早い段階で語彙を増やし、読解力とスピードをつける必要がある。[1]と[2]は漢字の読み書きで、普段から都立自校作成校レベルの漢字に触れていれば読み書きともに容易だった。[3]辻村深月『光待つ場所へ』は、大学生の主人公が、絵画教室で出会った青年とのやりとりを通じて自分自身の揺れる気持ちと向き合いながら前に進んでいく小説である。表現・心情・理由を問う選択問題6問は、傍線部の表現の解釈と文脈から場面把握を丁寧に行うことで、最も適切な選択を選ぶ。[4]小坂井敏晶『社会心理学講義』は、選択問題4問、長文記述2問（60字～80字、80字～100字）で構成されており、長く出題が続いていた200字作文がなくなった。意志や自己認識に関する抽象的な内容で難度が高かった。[5]松岡心平『中世芸能を読む』は、例年通り和歌がテーマで、様々な和歌を用いて「本歌取り・連歌」を考察した文章だった。〔問3〕は4つの和歌を並べる問題だが、時系列と登場するものをよく読んでいけばどの順番で歌が詠まれたかがわかる。全体として長い文章の中で多くの和歌の解釈を比較しながら筆者の考察を読み取れるかが勝負であった。

## ▶ 2020年度 大学合格実績

実績数値は現役・浪人の合計数。（ ）の数字は現役合格者の数。

京都市大	3名(2名)	東北大	7名(5名)	横浜国立大	8名(2名)	早稲田大	56名(27名)	青山学院大	33名(19名)
東京工業大	6名(6名)	千葉大	10名(8名)	東京農工大	14名(11名)	慶應義塾大	35名(16名)	立教大	46名(32名)
一橋大	7名(4名)	筑波大	4名(2名)	東京学芸大	11名(9名)	上智大	28名(21名)	中央大	117名(58名)
北海道大	4名(2名)	東京医科歯科大	1名(1名)	東京都立大	21名(16名)	東京理科大	66名(37名)	法政大	73名(46名)
大阪大	3名(2名)	東京外語大	9名(4名)	埼玉大	2名(2名)	明治大	117名(62名)	学習院大	7名(5名)
国公立大合計		137名(85名)							